

“百年の信頼を、未来につなげる”

**株式会社鳥羽洋行
2023年3月期
決算説明会資料**

2023年5月11日(木)

- I . 2023年3月期決算について
- II . 2024年3月期の戦略及び見通し
- III . 補足情報

I . 2023年3月期決算について

I. 2023年3月期決算について

2023年3月期の決算ハイライト

<国内売上高は前期比4%増も中国減収で連結売上高は横ばい>

- ◆国内の景気は上期堅調に推移していたが下期半導体メモリーの需給緩和にて減速。
中国の景気はゼロコロナ政策によるロックダウンなどで個人消費が大きく減速。
- ◆スマートフォン、PC等のメモリー半導体の需要減速。一方、パワー半導体の設備投資は旺盛に推移。
- ◆自動車・車載部品業界への販売は、自動車生産台数は回復したものの、部材不足及び原材料価格高騰の影響あり。

<営業利益は前期比14.1%減も、純利益は過去最高>

- ◆前期と比較して売上総利益率は0.4P低下。
- ◆販管費は、将来に向けた積極投資（広告宣伝費、営業活動費用等）により、前期比4.9%増。

<依然として販売商品の納期遅延の影響あり>

- ◆半導体、電子部品、その他部材（原材料）不足の影響は依然継続しており、販売商品の需給がひっ迫し、各得意先への長納期化の影響があった。

I. 2023年3月期決算について

< 連結損益計算書の概要 >

(単位：百万円)

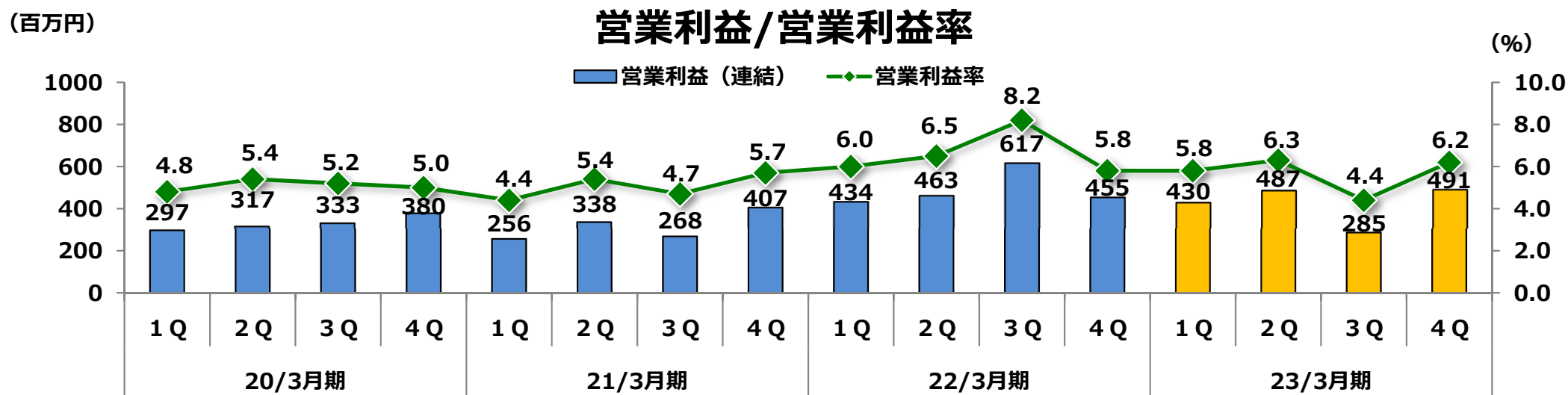
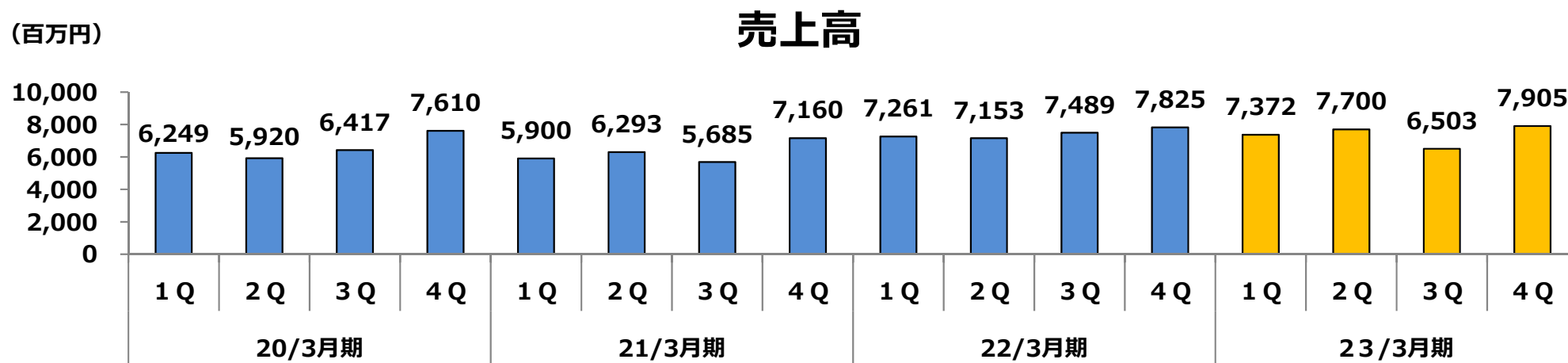
	22/3月期	23/3月期	前期比 (増減率)	備 考
売 上 高	29,730	29,482	△0.8%	
営 業 利 益	1,971	1,694	△14.1%	・売上総利益率は△0.4 P ・販管費は前期比+4.9%
営 業 利 益 率	6.6%	5.7%		
経 常 利 益	2,061	1,800	△12.6%	
経 常 利 益 率	6.9%	6.1%		
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,424	1,429	0.4%	・特別利益：投資有価証券の売却益 297百万円計上
当 期 純 利 益 率	4.8%	4.8%		

Point !

- 国内売上高は前年比 4.0%増加で過去最高売上を更新できたが、連結対象子会社である中国が大幅減収減益となり、連結売上高は 0.8%減。
- 販売管理費増により営業利益は減少も、純利益は過去最高。

I. 2023年3月期決算について

<四半期毎の売上高・営業利益（連結）の推移>



Point !

- 3 Qは、スマホ、PC向けの半導体製造装置関連の需要減少及び中国子会社の新型コロナウイルス再拡大等の影響を受け、売上高と営業利益ともに減少。

I. 2023年3月期決算について

<連結部門別実績>

制御機器



<主な得意先の業種>

デジタル機器/半導体・液晶製造装置
/基盤実装機/自動車・車載部品/
工作機械等

FA機器



<主な得意先の業種>

デジタル機器/自動車・車載部品/
半導体・液晶製造装置/OA機器/医
療機器/食品機器等

産業機器



<主な得意先の業種>

デジタル機器/自動車・車載部品/
半導体・液晶製造装置/精密機器等

【連結売上高】

制 御 機 器

83億59百万円

F A 機 器

145億65百万円

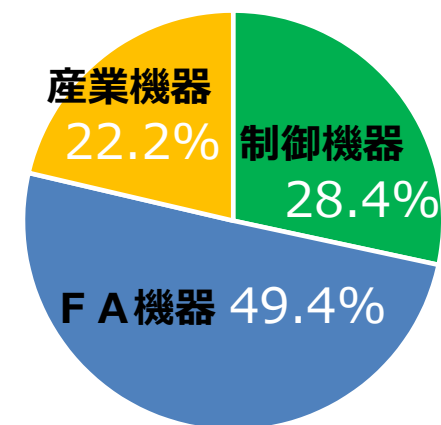
産 業 機 器

65億56百万円

合 計

294億82百万円

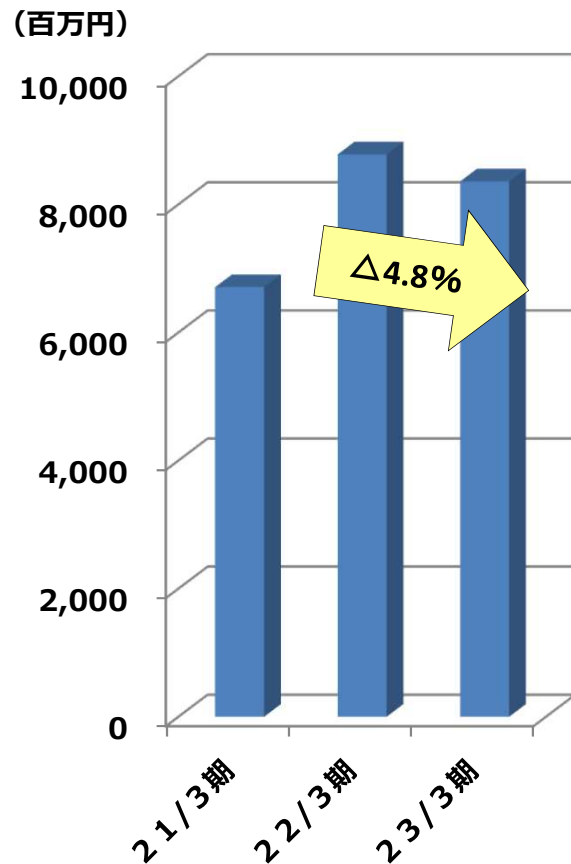
売上比率



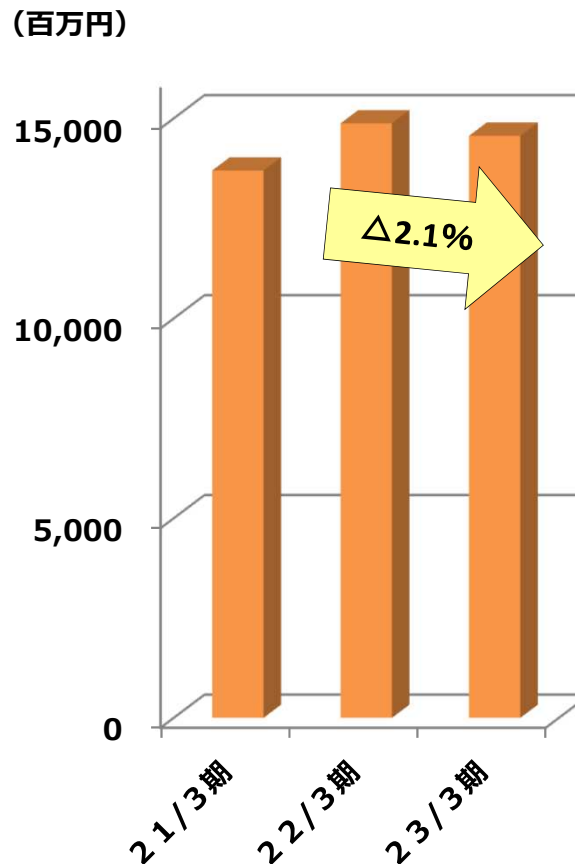
I. 2023年3月期決算について

<部門別売上高（連結）推移>

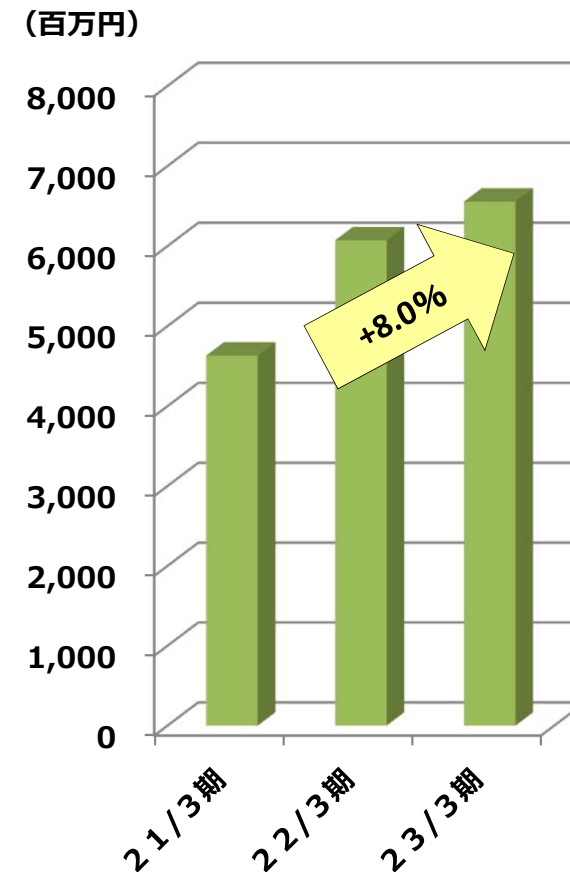
制御機器



F A 機器



産業機器

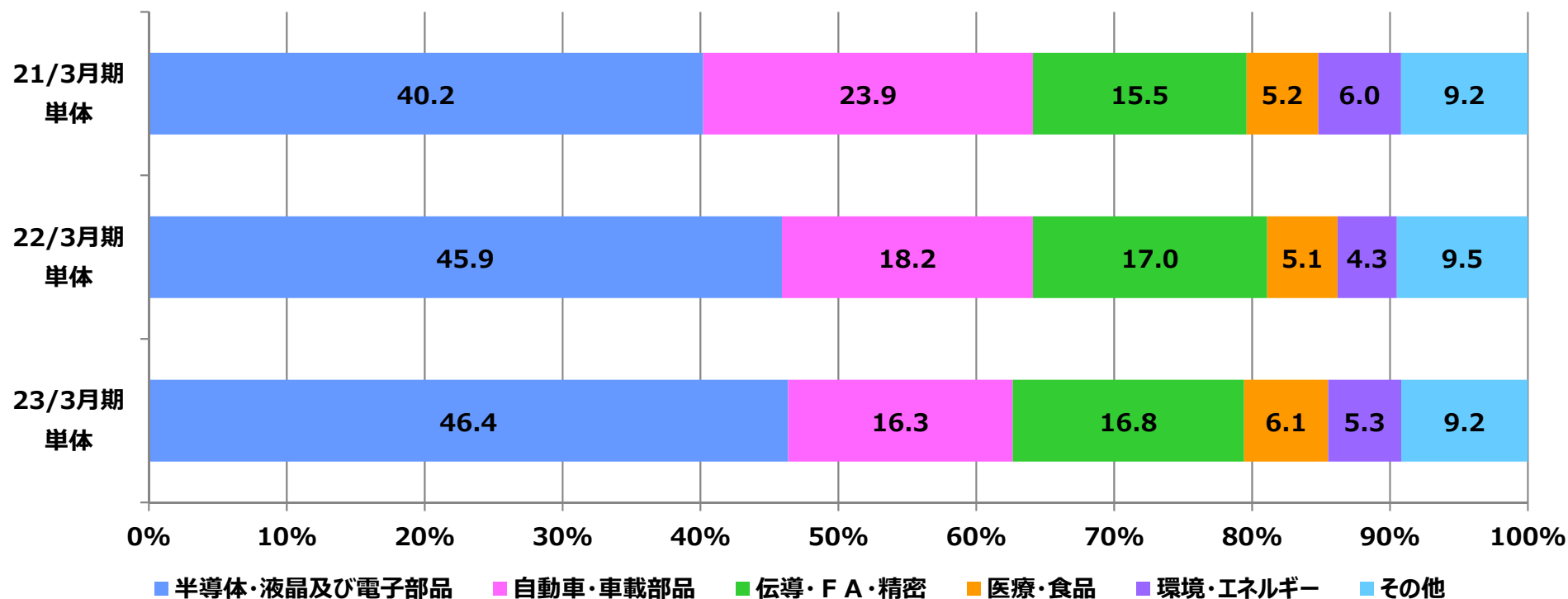


Point !

< F A 機器及/制御機器 > 中国の需要減により、自動化設備関連需要が減少
< 産業機器 > 半導体関連向けフィルターの販売好調で大幅に増加

I. 2023年3月期決算について

＜業種別売上構成比（単体）推移＞



＜半導体・液晶及び電子部品＞

前年からの需要継続により、前半は好調維持も後半は減速傾向（+0.5 P）

＜自動車・車載部品＞

自動車生産に係る部材不足の影響から販売が伸び悩む（△1.9 P）

＜医療・食品/環境・エネルギー＞

医療・食品関連の自動化需要が増加（+2.0 P）

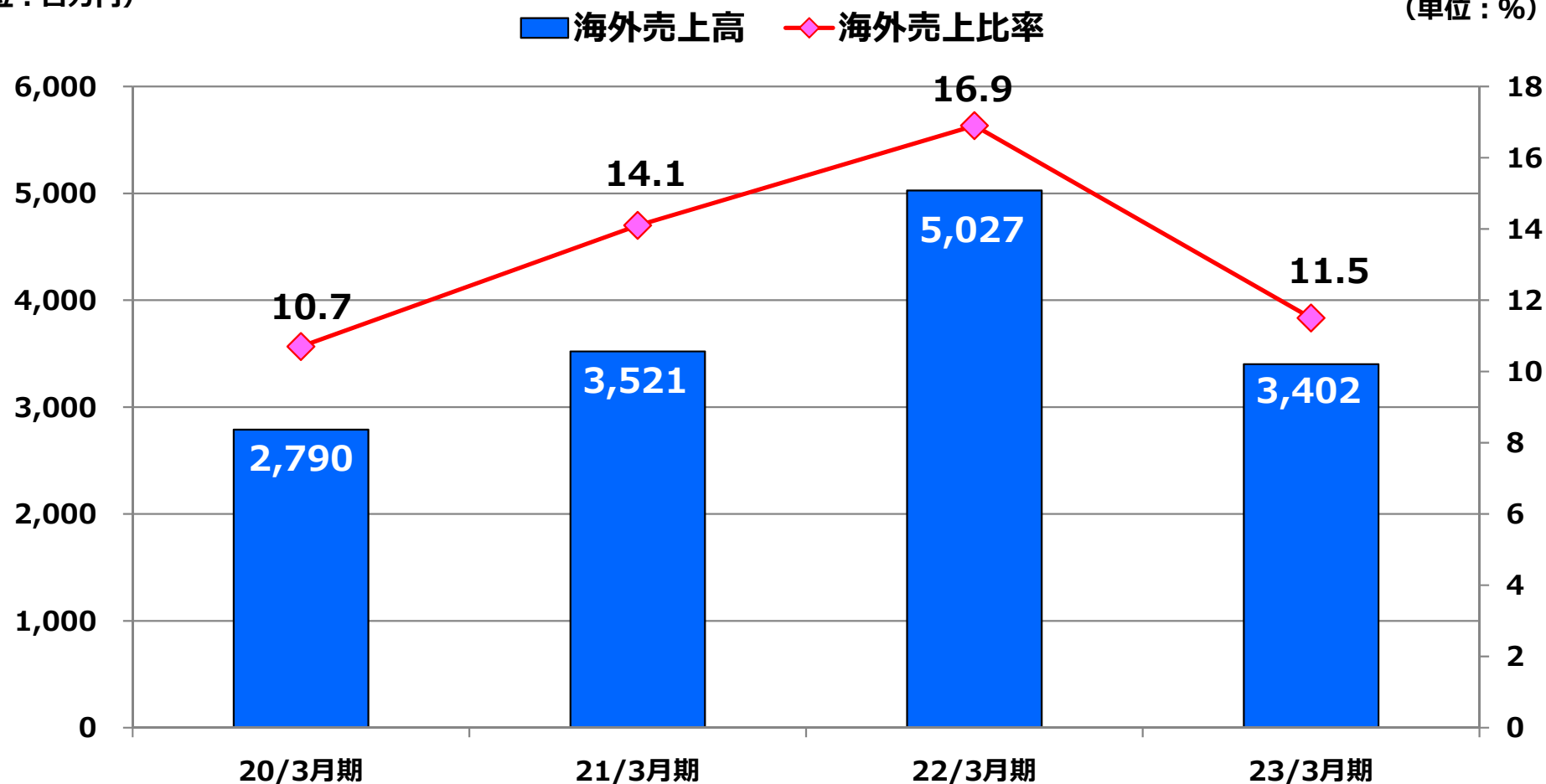
Point !

I. 2023年3月期決算について

<海外売上高・海外売上比率（連結）>

（単位：百万円）

（単位：％）



Point !

中国でのスマートフォン関連得意先へのロボット販売が、ゼロコロナ政策によるロックダウン等の影響を受け、大きく減少。

I. 2023年3月期決算について

< 連結貸借対照表の概要 >

(単位：百万円)

	22/3月末	構成比 (%)	23/3月末	構成比 (%)	備 考
流動資産	21,761	75.1	22,595	77.6	
現金・預金	10,100	34.9	11,012	37.8	
受取手形・売掛金 ・電子記録債権	11,251	38.8	11,084	38.0	
商品	275	1.0	363	1.2	
固定資産	7,206	24.9	6,528	22.4	
資産合計	28,968	100.0	29,124	100.0	
流動負債	9,237	31.9	8,920	30.6	
支払手形・買掛金 ・電子記録債務	8,129	28.1	8,099	27.8	
固定負債	450	1.6	403	1.4	
負債合計	9,687	33.4	9,324	32.0	
純資産合計	19,280	66.6	19,799	68.0	
負債純資産合計	28,968	100.0	29,124	100.0	

Point !

構成比に大きな変化はございません。

I. 2023年3月期決算について

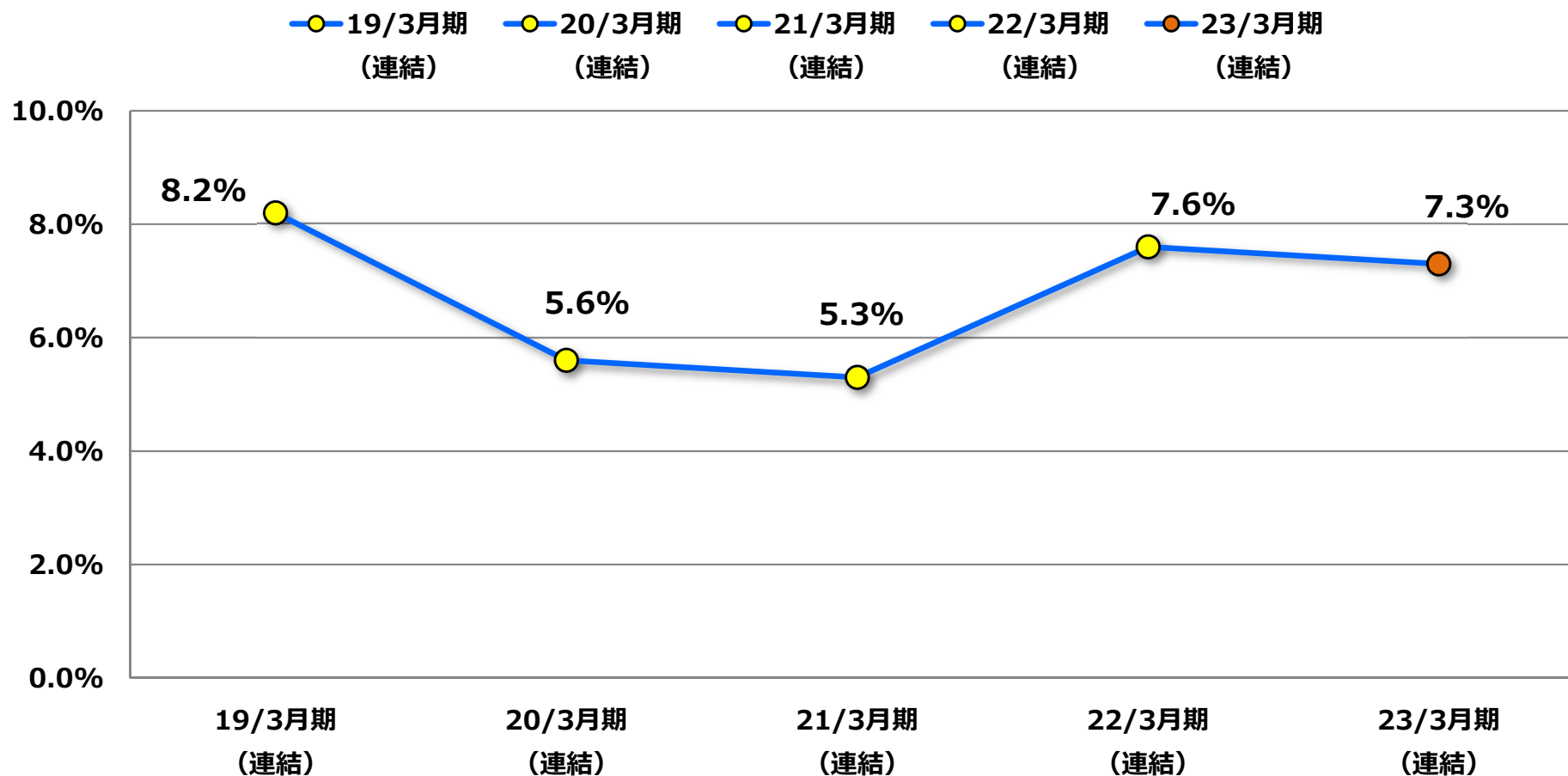
＜連結キャッシュ・フロー計算書の概要＞

(単位：百万円)

	22/3月期	23/3月期	2023年3月期のC Fの主な内訳
営業活動によるC F	1,360	1,229	・税金等調整前当期純利益の計上 (+ 2,098百万円) ・投資有価証券売却益 (△297百万円) ・売上債権の減少 (+ 241百万円) ・法人税等の支払 (△708百万円)
投資活動によるC F	△752	69	・定期預金の払戻 (+ 500百万円) ・定期預金の預入 (△500百万円) ・無形固定資産の取得 (△298百万円)
財務活動によるC F	△751	△910	・自己株式の取得 (△399百万円) ・配当金の支払 (△511百万円)
現金及び現金同等物 に係る換算差額	71	23	
現金及び現金同等物 の増減額	△72	411	
現金及び現金同等物 の期首残高	9,673	9,600	
現金及び現金同等物 の期末残高	9,600	10,012	

I. 2023年3月期決算について

<ROEの推移>



Point !

● 当社目標値 8.0%

施策：将来に向けての積極的な投資での地盤固めを行うとともに、安定的な株主還元を推進し、業績の拡大とROEの水準を高めてまいります。

I. 2023年3月期決算について

<主要な経営指標（連結）>

	第71期 2020年3月期	第72期 2021年3月期	第73期 2022年3月期	第74期 2023年3月期
自己資本比率	66.0%	67.4%	66.5%	67.9%
自己資本利益率（R O E）	5.6%	5.3%	7.6%	7.3%
総資産利益率（R O A）	3.6%	3.5%	5.1%	4.9%
株価収益率（P E R）	10.7倍	11.7倍	8.5倍	8.4倍
株価純資産倍率（P B R）	0.6倍	0.6倍	0.6倍	0.6倍
1株当たり当期純利益	224.91円	219.41円	330.69円	340.14円
1株当たり配当額	120円	100円	120円	120円
配当性向	53.4%	45.6%	36.3%	35.3%
配当利回り（期末時点）	5.0%	3.9%	4.3%	4.2%

※2023年3月期の1株当たり配当額は、配当予定額であります。

Ⅱ． 2024年3月期の戦略及び見通し

Ⅱ．2024年3月期の戦略及び見通し

<2024年3月期の市場環境予想>

◆ 経済活動の状況

国内は新型コロナウイルス感染症の5類移行が始まり、経済活動の回復が見込まれるものの、物価高の影響もあり、個人消費や企業の設備投資マインドは先行き不透明。

◆ 半導体関連

スマホ、PC関連向けメモリー半導体需要低迷は継続する予想。車載向け等のパワー半導体は設備投資含め需要が旺盛ではあるが、全般的に弱含み。

◆ 自動車・車載部品業界

自動車生産台数は回復したが、依然として車載向け半導体不足、原材料及び部材の供給体制は不安定要素あり、伸び悩みの懸念。

◆ 地政学的リスク

米中貿易摩擦、長期化するロシア・ウクライナ問題の影響は引き続きエネルギー資源や原材料不足等の不安要素が継続していくものと予想。

Ⅱ．2024年3月期の戦略及び見通し

『サステナビリティ』 ～ 企業価値向上へ向けた取組み ～

取り巻く環境・社会からの要求	サステナビリティの取組み 当社の重要課題（マテリアリティ）	SDG s 目標	鳥羽洋行の「あるべき姿」 具体的な取組み
カーボンニュートラル・SDGs	同業他社と差別化できる環境負荷の低い高付加価値商品の発掘	 	サステナビリティ経営 ・省エネ機器の販売注力と新商材の開拓 ・自社でのCO₂排出量削減取組み ハイブリット車・電気自動車の導入 各事業所 LED照明の導入
トランスフォームによる新たな事業収益	技術革新が進む産業界での当社業務の拡大できる新しい販売市場の開拓	 	業績の拡大 ・当社ネットワークを活かした顧客/ルート開拓 ・ロボット及び自動化システム営業強化
人口減少による人材不足（労働人口不足）	人への投資による既存人材の成長と将来を担う感性豊かな人材の確保	 	人的資本の向上 ・働きやすい職場環境整備、人材育成 ・女性の活躍、幅広い人材の採用
デジタル化・DX戦略の推進	基幹システムの更新等による業務効率と顧客満足度の向上		生産性・業務効率向上 ・顧客/社内の業務効率改善 ・ペーパーレス化（SDGs）
ガバナンス強化と透明性	激動する社会情勢に対応するためのコーポレート・ガバナンスの強化		「信用第一主義」 ・会社機関とサステナビリティ委員会との融合 ・コーポレート・ガバナンスコード遵守と開示

Ⅱ．2024年3月期の戦略及び見通し

- 1．次世代の柱となるユーザー新規開拓、育成
- 2．新商材発掘（SDGs/環境や人にやさしい商品）
- 3．装置ビジネスの更なる販売強化
- 4．技術商社としての存在価値強化
- 5．海外拠点との連携強化

Ⅱ．2024年3月期の戦略及び見通し

3．装置ビジネスの更なる販売強化

『エレクトロニクスの特門商社』

鳥羽洋行の「あるべき姿」



Ⅱ．2024年3月期の戦略及び見通し

4．技術商社としての存在価値強化 ～選ばれる商社に～

各メーカー様との複合展、ミニ展、セミナー開催、
デモ機の有効活用等、個々のスキルアップ

＜今期も大型展示会への積極出展＞

- 2023年 7月26日～28日
協働ロボット利活用展（東京ビックサイト）
- 2023年 10月4日～6日
関西機械要素技術展（インテックス大阪）



各種協働ロボット デモ実演



電動キャスター デモ実演



昨年の展示会場ブースの様子

Ⅱ．2024年3月期の戦略及び見通し

5．海外拠点との連携強化（情報共有）

国外 **5ヶ所**の営業拠点

中国

鳥羽（上海）貿易有限公司（2008年）
（同公司）深圳分公司（2011年）
（同公司）蘇州分公司（2014年）

ベトナム

TOBA,INC. (VIETNAM) CO.,LTD（2020年）

タイ

TOBA（THAILAND）CO.,LTD.（2012年）



Ⅱ．2024年3月期の戦略及び見通し

<2024年3月期の業績予想>

(単位：百万円)

	23/3月期 (実績)	24/3月期 (予想)	前期比 (増減率)
売上高	29,482	30,000	1.8%
営業利益	1,694	1,800	6.2%
営業利益率	5.7%	6.0%	0.3 P
経常利益	1,800	1,900	5.5%
経常利益率	6.1%	6.3%	0.2 P
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,429	1,290	△9.8%
当期純利益率	4.8%	4.3%	△0.5 P

この資料には、2023年5月10日現在における弊社の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

従いまして、その内容につきましては、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。また、本プレゼンテーションは、投資を勧める目的のものではありません。

[問い合わせ先]

株式会社 鳥羽洋行

管理本部総務グループ I R 担当

住 所：〒112-0005

東京都文京区水道2丁目8番6号

電話番号：03-3944-4031

F A X：03-3944-4091

E メール：kanri-01@toba.co.jp



株式
会社

鳥羽洋行